

*2002年10月28日に米国で発表されたプレス・リリースの抄訳です。

[ご参考]

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループ、 2002年第3四半期の業績を発表

純利益は2億6,500万ドル、経常利益は3億6,500万ドルを計上

日本における変額年金保険の販売額は353億円を達成

[米国 コネチカット州ハートフォード 2002年10月28日]

国際的な大手保険および金融サービス会社であるザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループ (NYSE 略称: HIG、以下「ザ・ハートフォード」) は本日、2002年第3四半期 (2002年7~9月、以下「当四半期」) の業績を発表しました。純利益は前年同期の1億300万ドルの損失から2億6500万ドルの益へと転じ、また1株当たり純利益 (希薄化後) についても、前年同期の0.43ドルの損失から1.06ドルの益へと転じています。

純利益には税引後の実現キャピタル・ロスが算入されており、当四半期における税引後の実現キャピタル・ロスは前年同期の5,100万ドルから1億ドルに増加しています。これは主に資産担保証券 (ABS) の1億1,100万ドル (税引後) の有価証券評価減によるものです。ただし、上記の評価減は、1,100万ドルの税引後実現キャピタル・ゲインによって部分的に相殺されています。

当四半期における経常利益は、前年同期の5,200万ドルの損失から3億6,500万ドルの益に転じ、1株当たり経常利益 (希薄化後) は前年同期の0.22ドルの損失から1.46ドルの益へと転じています。なお、経常利益には税引後の実現キャピタル・ゲイン (ロス) および会計方針の変更による累積的影響は含まれていません。

日本で事業を展開しているザ・ハートフォードの日本法人、ハートフォード生命保険株式会社では、当四半期における変額年金保険の販売額 (収入保険料ベース) が前年同期の160億円から増加し、353億円に達しました。なお、2002年9月末現在の累計販売額は1,408億円に達しています。

ハートフォード・ライフの社長兼最高業務責任者であるトーマス A. マーラは日本の事業について次のように述べています。「ハートフォードの日本における変額年金事業は、主として日興コーディアル証券の販売努力に支えられ大きな成功を収めてきました。10月1日から生保商品の銀行窓販が解禁となったことから今後もさらなる成功を収めていきたいと願っています」。

ザ・ハートフォードの会長兼最高経営責任者であるラマニ・アイアーは、当四半期の業績について次のように述べています。「当四半期の業績は、保険料率の上昇や、災害事故の発生件数が低水準にとどまったこと、また当社の損害保険部門において引受業務が著しく改善したことを反映しています。また保険料の価格設定が周期的に変動する中で、現在は1980年代半ば以来最も高水準に達していることを示唆する兆候がいろいろな面で表れています。当社ではそうした市場の好機を捉え事業戦略を展開しています。当四半期における株式市場はかなり厳しい状況で、その影響は当社の個人年金部門の業績にも現れていますが、他の投資商品、団体生命保険での増益は2桁の伸びを示しています」。

さらに続けて次のように述べています。「こうした状況を見ると、各事業がきちんと確立した多様な事業基盤をもつことで、市場のあらゆる局面に有利に対応することができると思っています。当社では、幅広い商品の品揃えと販売チャネルによって様々な市場状況、経済状況を乗り切ると同時に、当社の強みを発揮することができる新しい事業機会を開拓する能力を示すことができました。こうしたことから、今後とも主力市場での大きな機会を捉えることで、来年度にはさらに良い業績を上げることを確信しています」。

当社では、昨年9月11日の同時多発テロ事件後、資本増強の一環として700万株に上る株式公募を実施し、株式報酬制度による約260万株の株式の発行と権利行使の結果、前年同期に比べ発行済株式数が増加し、当四半期における1株当たり経常利益（希薄化後）に影響しています。

なお、当四半期における経常利益は、昨年の同時多発テロ事件や税効果会計などの特殊要因を考慮し調整を行った場合、前年同期の2億7,100万ドルから7%増加し、2億8,900万ドルとなり、1株当たり経常利益(希薄化後)は、前年同期の1.12ドルから1.15ドルに増加します。

当四半期における生命保険事業の経常利益は、長引く株式市場の低迷が個人年金部門の業績に響き、前年同期比12%減の1億5,600万ドルを計上しています。これには同時多発テロ事件や他の特殊要因は含まれていません。

北米地域で展開する損害保険事業の経常利益は、引受業務の著しい業績改善、引受手数料の継続的な増加および引受業務の強化策などが効を奏し、前年同期比37%増の1億3,800万ドルに達しています。ここからも同時多発テロ事件の影響は除外されています。

なお、調整後の当四半期の業績にはハートフォード・ライフの税効果会計による7,600万ドルは含まれていません。また、前年同期における調整後の業績には同時多発テロ事件に関連する4億4,000万ドルの損失（税引後）、ハートフォード・ライフの税効果会計1億3,000万ドル、営業権償却（税引後）の1,300万ドルは含まれていません。

総資産および株主資本

2002年9月30日現在、ザ・ハートフォードの総資産は前年同期比3%増の1,755億ドルに達しています。また、運用資産残高（投資信託資産を含む）も、1,908億ドルに増加しまし

た。2002年9月30日現在、未実現損益を除く当社の1株当たり簿価は、前年同日の32.94ドルから11%増加し36.45ドルに達しています。

* * *

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービス・グループ (NYSE 略称: HIG、以下「ザ・ハートフォード」) は米国でもっとも由緒ある国際的な大手保険および金融サービス会社の一つであり、2001年の総収入は151億ドルを計上しています。2002年9月30日現在、当社の総資産は1,755億ドル、株主資本は109億ドルに達しています。ザ・ハートフォードは、投資金融商品をはじめ、各種生命保険、団体生命保険、自動車保険、住宅保険、法人向け損害保険のほか、再保険などを提供しています。ハートフォード生命保険株式会社はザ・ハートフォードの日本法人です。

ザ・ハートフォードに関するより詳細な財務情報の入手をご希望の方は、当社のホームページ (www.thehartford.com) にアクセスして The Hartford's Investor Financial Supplement のページをご覧ください。

このリリースに記載された一部のステートメントは、1995年私募証券訴訟改正法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) において定義されている予見的情報 (forward looking information) であるとみなす必要があります。当社は、投資家の皆様にこのような予見的ステートメントが将来の業績を保証するものではなく、実際の業績は大きく異なる可能性があることをお断りします。投資家の皆様は、当社の事業に係わるリスクと不確実性が将来の業績に影響を及ぼす可能性を考慮することが求められます。こうしたリスクと不確実性については、皆様が入手可能な文書、例えば当社の年次報告書、SECに提出した文書等に記載されています。またこうした不確実性には、9月に発生した同時多発テロ事件に伴う被害の実態や額が予測できないこと、その他新事実の発覚、再保険契約下での再保険会社の今後の対応、再保険料の上昇がもたらす影響、予想以上の損失を被る可能性、経済および経営環境が予想よりも悪化する可能性、金利または株式相場変動の可能性、予想以上に競争が激化する可能性、当社にとって不利な法律の制定や司法判断の可能性および自然災害が予想を超える頻度または深刻度で発生する可能性などが含まれます。なお、当社では、発表当日後における本リリースの内容更新については義務を負っていません。

<この件に関するお問い合わせ先>

ハートフォード生命保険株式会社 社長室 課長	ギャビン・アンダーソン・アンド・カンパニー
ブルース・エルズワース (日本語可)	笠原佳世 / 宮川真理
電話: 03-5777-8083	電話: 03-5404-0640
bruce.j.ellsworth@hartfordlife.com	kkasahara@gajapan.co.jp / mmiyakawa@gajapan.co.jp